

## 人口減少対策等調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和 2 年 12 月 21 日 ( 月 )  
午前 9 時 26 分 開会  
午前 11 時 30 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出席委員 委員長 田中藤一郎  
副委員長 芦田 竹彦  
委員 伊藤 仁、井上 正治、  
関貫久仁郎、西田 真、  
村岡 峰男
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 (別紙のとおり)
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼総務係長 小林 昌弘
- 8 会議に付した事件 (別紙のとおり)

人口減少対策等調査特別委員長 田中藤一郎

# 人口減少対策等調査特別委員会 次第

日 時：2020年12月21日(月)9:30～

場 所：第3委員会室

## 1 開 会

## 2 委員長あいさつ

## 3 協議事項

### (1) 委員会所管事項について（現況説明等）

【政策調整部】 政策調整課、公共施設マネジメント推進室

【総務部】 ワークイノベーション推進室

【健康福祉部】 健康増進課

【環境経済部】 環境経済課

### (2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項 <別紙1>

### (3) その他

## 4 閉 会

# 人口減少対策等調査特別委員会名簿

## 【委員】

職名	氏名
委員長	田中 藤一郎
副委員長	芦田 竹彦
委員	伊藤 仁
委員	井上 正治
委員	関貫 久仁郎
委員	西田 真
委員	村岡 峰男

7名

## 【当局】

職名	氏名	職名	氏名
政策調整部長	塚本 繁樹	政策調整課長	井上 靖彦
総務部長	成田 寿道		
総務部次長兼ワークイノベーション推進室長	上田 篤	ワークイノベーション推進室参事	岸本 京子
健康福祉部長	久保川 伸幸	健康増進課長	宮本 和幸
政策調整部参事	正木 一郎		
政策調整部次長兼公共施設マネジメント推進室長	土生田 哉		
環境経済部長	坂本 成彦	環境経済課長	午菴 晴喜

11名

## 【議会事務局】

職名	氏名
主幹兼総務係長	小林 昌弘

19名

## 午前9時26分開会

○委員長（田中藤一郎） 若干定刻前ですけれども、おそろいということになりますので、ただいまから人口減少対策等調査特別委員会を開会いたします。

おはようございます。久しぶりに雪が降りまして、やっぱり出石は豊岡の半分くらいはせんけども、少し少なかったようです。さすがに観光客の方も少なかったようには思っております。まだまだこれから雪のシーズンになっていきます。今年はお正月等々も、井上議員の地元はにぎわうのかなというふうに、ちょっとうれしく思っております。雪空けで腰を痛めないように頑張っていきたいというふうに思います。

あと、今年も残り少なくなってきました。今年もいろいろとお世話になりましたけども、来年もどうぞよろしくお祈りします。

それでは、協議事項に入ります前に、連絡させていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用して発言していただきますようお願いいたします。また、課名と氏名も同じくお願いをいたします。

それでは、次第3番、協議事項に移ります。

（1）委員会所管事項についてです。

それでは、第3の、まず委員会所管事項について、課、室ごとに説明、質疑という形で進めたいと思いますが、これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（田中藤一郎） ご異議がないようなので、そのように決定いたします。

それでは、まず、政策調整部政策調整課から説明をお願いします。

井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 私のほうから、地方創生総合戦略の第2版の案について、まずご説明をさせていただきます。

この第2期の地方創生総合戦略につきましては、今年2月に策定をいたしました。今回、その第2版ということ、改訂したいということでご説明をさ

せていただきます。

これにつきましては、10月28日に開催しました地方創生戦略会議、外部の委員さんを含めた会議ですけれども、そちらでも提案をして、意見を聞いております。

それでは、改訂の内容ですが、10ページをお開きください。基本的なところは変わっておりませんが、10ページの朱書きをしております上から4行目、これまで国際観光芸術専門職大学（仮称）としていたものを認可を受けたということで、芸術文化観光専門職大学というふうに改めております。以下、この表記について全て文面を改めてるとというのが1点目の改訂の案でございます。

続きまして、12ページをご覧ください。この中ほど、赤字で書いております。戦略策定・遂行に当たっての留意事項ということで、これは第1期の総合戦略でもこのような形で、委員の皆さんから意見をいただいたり、あるいは、そのときそのときで推進する必要があるものについて書き足しているものでございます。

今回、①としまして、アイティ4階の子育て支援の総合拠点と、それから生涯学習サロンを含めた、多様な人々が集い・交わる場を整備するというところを明確に記載したところでございます。これにつきましては、国の交付金を受ける上でも明らかにしておく必要があるということで、記載を加えております。

②でございます。これはスマートコミュニティの推進ということで上げておりますが、豊岡市とトヨタ・モビリティ基金が中心になって運営している豊岡スマートコミュニティ推進機構の活動を地方創生に位置づけたものでございます。所管は大交流課が行っております。記載のとおり、スマートコミュニティはICT、IoT、データ活用等の適切な技術を最大限活用し、地域の特性に応じて、モビリティ、地域産業、エネルギー、健康医療、人材育成など、様々な課題を解決し、持続的に発展する地域をつくろうとするものです。これにより、生活の心地よさを高めつつ、人々が多様性を認め、フラットで

スマートにつながるコミュニティの構築を目指すとしております。

今年の5月にこの推進体制を取りましたので、まだ実際には調査の段階ということですが、豊岡演劇祭等で実証実験を重ねながら、今後も推進していくということですが。

地方創生総合戦略の改訂については、以上でございます。

続きまして、別紙であります地方創生推進交付金事業一覧という、このA4の1枚物でございます。前回のこの委員会でも推進交付金を使っているということで、4事業というようなことで説明をさせていただいております。これは国の交付金を取るために、いろんな施策をパッケージ化しております。

例えばですけれども、世界の人々が豊岡を楽しむ誘客事業、一番上の事業でございますが、こういう一つの事業名をつくりまして、内容としましては、ナンバー1に書いてます一般社団法人豊岡観光イノベーションの専門的視野を有する経営人材の育成とか、あるいは外国人観光客及び国内観光客の動向情報の取得等々、6つの事業を1つにしております。

右側の市の事業名ということでいきますと、これは予算上の名前になっております。所管はそれぞれありますが、1つにまとめて予算額をその次に上げております。これも2分の1が交付金に当たるということで、ここでいきますと、申請の総事業費が5,051万1,000円、それに対して交付決定は2,525万5,000円ということになります。実際、交付決定、これだけ受けておりますが、職員旅費等が交付の対象外になるということでありまして、最終的な市の収入というのは大体8割ぐらいになるのかなというふうに思っております。

以下、多様性を受け入れ、支えあうリベラルなまちづくり事業、深さをもった演劇のまちづくり事業、豊岡の基盤産業の強化と支える人材の育成・確保事業としております。

あと、一番上は5年間の事業でございますが、2番目の多様性、それから3番目の豊岡の基盤産業と

いうのは、これは3年間の事業です。中ほど、深さをもった演劇のまちづくりも3年が基本ではございますが、企業版ふるさと納税を活用するというところで、特例的に5年となっております。

続きまして、裏面でございます。裏面が、ひょうご地域創生交付金でございます。これは兵庫県独自の施策でございます。国の、さっき見ていただいた地方創生推進交付金が該当しないものがあつた場合に、こちらのほうでカバーするという事業でございます。こちらの事業は4本つくってございまして、それぞれ同じようにパッケージとしてまとめております。こちらについては、ハード事業も対象となっております。

これにつきましては、2020の予算額、それから、申請の事業費等で若干違いがございます。交付金の対象額もさらに予算額より下がっておりますが、県の内部調整の段階で、大体これは国と違って7割程度を見るということになっております。残り3割を残して、それ以外、後期の対応に当たったり、あるいはまた新しいところが出てきたら、県内でそちらに充てるというようなことがありますので、大体7割、例えば一番上の婚活イベントですと、48万円の7割、33万6,000円が対象経費となりまして、県の補助はその2分の1で16万8,000円ということになっております。これにつきましては、市の地方創生の総合戦略だけでなく、県の総合戦略に基づく事業であってもオーケーということで、割と広く取って頂けますので、財源として広く活用しているということでございます。

以上で政策調整課からの説明とさせていただきます。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 今の最後の説明、交付決定のところ。交付金対象額が70%で、例えば一番上だったら33万6,000円と。県の補助額16万8,000円ってというのは、これ以外にまだプラスで入るということか。

○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） これ以外に入るとい  
うわけではございません。この16万8,000円  
が入ってくるということでございます。  
○委員長（田中藤一郎） 村岡委員。  
○委員（村岡 峰男） 交付金、対象額が事業費の7  
0%で、その対象額のうち補助額は16万8,00  
0円ってことか。分かりました。  
○委員長（田中藤一郎） よろしいですか。  
○委員（村岡 峰男） はい。  
○委員長（田中藤一郎） そのほか、どなたか。ない  
ですか。よろしいか。  
西田委員。  
○委員（西田 真） 一番上の、世界の人々が豊岡  
を楽しむ誘客事業ということで、2016年度から  
始まるとのわけですけど、その下の2019年度も  
そうなんですけど、これも途中経過というのは年度ご  
とに出とるんでしょうかね、どうなんですかね、成  
果を含めてね。  
○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） 国のほうには毎年実  
績報告を出しております、その中でKPI、重要  
成果指標ですか、これを定めて、それが幾らぐら  
いになったかというような報告は国のほうにはして  
おります。  
○委員長（田中藤一郎） 西田委員。  
○委員（西田 真） 国のほうにはそうかしらんけ  
ど、議員のほうに途中経過みたいな、実績も含めて、  
そういうような報告はないということですか。  
○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） 個々の事業ごとの報  
告はいたしておりませんが、毎年、地方創生総合戦  
略全体の指標の説明をしております、その中に大  
きな項目で、大交流の推進ということで、外国人宿  
泊客が何人になったかというようなことは説明を  
させていただいておりますし、公表をしております。  
○委員長（田中藤一郎） 西田委員。  
○委員（西田 真） その大まかには、そうかし  
らんけど、個々にいうのも議員のほうには説明すべ

きだと思うんですけど、どうですかね、今後の検討  
としても。

○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） 個々の事業、その一  
つ一つの事業に成果をつけてるかという、そうい  
うことでもなく、各課がそれぞれどうだったかとい  
うことを踏まえてまた来年度します、なかなか  
個々の事業でということとはちょっと難しいかなと  
いうふうに思っております。  
○委員長（田中藤一郎） 西田委員。  
○委員（西田 真） いや、それぞれの担当の課が  
するのは当然のことですけれども、やはり途中  
経過というのは、それぞれの課でもやっとならずです  
から、今年度はこうだ、来年度はこうしよう  
か、そういうような集計をしとるはずですからね、  
それを議員のほうにも提示すべきだと思  
うんですけど、再度いかがですか。  
○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） 大きなくくりとい  
いますか、例えば人口の社会増の緩和とか、そう  
いったものについて、ちょっと一つ一つには  
ならないかもしれませんが、大きなくくりでは  
していきたいというふうに思っています。  
○委員長（田中藤一郎） 西田委員。  
○委員（西田 真） いやいや、大きなくくりは  
先ほども説明されました。いや、私が言  
つとるのは、個々にもそういうのを議員の  
ほうにも提示すべきじゃないんですかとい  
う話を言っておりますけど、どう  
ですか、再度。  
○委員長（田中藤一郎） 井上課長。  
○政策調整課長（井上 靖彦） また検討  
したいと思います。  
○委員長（田中藤一郎） 西田委員、どうぞ。  
○委員（西田 真） やはりそうしてもら  
わんと、議員のほうとしてどこを見る  
んだという格好になりますよ。大まかに  
出しますと、大まかに私どもが見て、  
そうなんですかと言うだけになっちゃ  
いますので、やっぱり個々で提示して  
いただいて、ああ、そういうふうにな  
るとるんかなというような途中

経過も含めて、小計も含めて議員としても知っとるべきだと思いますので、ぜひその辺はよろしく願いしときます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） じゃあ、よろしくお願いをします。

そのほかございますか。

井上委員。

○委員（井上 正治） 地方創生の推進の交付事業の一番上の、世界の人々が豊岡を楽しむ誘客事業でございますけども、本年度で一応、予定終了ということなんですけども、来年度以降に向けての方向性というのはある程度出されておりますか。

○委員長（田中藤一郎） 井上課長。

○政策調整課長（井上 靖彦） 5年なり3年で任期が終わると、基本的には継続の交付金はないということなんですけども、また進化、高度化っていうことで、あるいはちょっと内容を変えたりするとまた通るといようなこともございますので、今回、これも現状分析をして、やっぱりやめるべきところはやめて、引き継ぐものについては、またいろんな中で、県も含めて交付金は取っていききたいというふうに思っております。

○委員長（田中藤一郎） 井上委員。

○委員（井上 正治） また評価をされて、ABCとか、ランキングは出されるとは思うんですけども、やっぱりその辺をしっかりと精査をして、これは無駄のないように有効に使っていただいて、市民が少しでも、この、例えば演劇も始まっておりますし、いろんな意味合いで、やっぱり豊岡を楽しんでいただく誘客をすべきだというふうに思います。これは率先して、やっぱり大交流を進めていただけたらと思いますので、引き続ききちとした計画を立案していただきたい、これはお願いでございます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） よろしくお願いをいたします。

そのほかの方、ございませんか。

それでは、ないようですので、次に政策調整部公共施設マネジメント推進室、お願いします。

土生田室長。

○公共施設マネジメント推進室長（土生田 哉） 資料のほうの1ページをご覧くださいと思います。地域デザイン懇談会運営支援業務、前回、委員会から進捗状況あったもののみお知らせをさせていただきます。

こちらのほうにつきましては、8月7日にプロポーザルのほうを再開して、契約締結にこぎ着けました。

11月5日に豊岡地域デザイン検討支援、八州とキタイ設計、人・まち・住まい研究所、この共同企業体による受託ということになりました。契約額は768万9,000円、768万9,000円、合計で、記載漏れておりますけども、1,537万8,000円の2か年事業といたしております。ただ、発注時期が4か月、当初、コロナの関係で遅れておりますので12月補正のほうで事業費の一部、512万6,000円を繰越明許費ということで設定をさせていただいております。

実施体制でございます。豊岡地域におきましては、代表者であります株式会社八州のほう、右側、日高地域につきましては、キタイ設計、それから竹野と但東につきましては、株式会社八州、それから城崎、出石は人・まち・住まい研究所のほう、それぞれがファシリテーターとして、代表、そこの地域の地域デザイン懇談会のほう、運営支援を行うということにしております。

その下に掲げております、旧5町域につきましては、各地域30名規模の参加者、これを想定して、現在、振興局のほうへ取りまとめをお願いしております。2か年をかけて、市民参加型のワークショップ、こちらのほうを開催していく予定にしております。

また、ここのワークショップのほうには、共創という形で、職員のほうも参画すると、テーブルコーディネーターとして、各町域のほうには3名ずつ、それぞれ市内公募をしまして、手を挙げていただいた職員のほうがそれぞれの地域に出向くということにしております。

ただ、旧豊岡市域につきましては、ワークショップという形式がなかなか、形式としてどうなんだろうかということは今、手法を検討しております。別の手法で懇談会の開催を想定しているということで、現在まででございますけども、3チームに別れて、それぞれ入るということでございますので、それぞれ参画するチーム、それから参画する職員の目合わせ、それぞれのスキルを統一化することがありまして、11月24日と、先日の12月18日、それぞれに研修会、それから内部調整を行う会議を開催しました。それには参画する職員15名のほか、それぞれオープン参加で、これからの共創を担うべき職員というのが多数いますので、庁内で公募を取りまして、それぞれ参加をしていただいたということで研修をしております。

なお、1月以降に始めるため、現在、日程調整をしておりますけれども、ただコロナの感染状況の問題もございますので、この辺は慎重に、かつ着実に進める方向を考えなければならないというふうにしております。以上でございます。

○委員長(田中藤一郎) 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

○委員(西田 真) 1点だけ。

○委員長(田中藤一郎) 西田委員。

○委員(西田 真) すみません、今説明いただきました、このプロポーザルは何社ぐらい、今この契約されとるのはJVでされとるんですけど、プロポーザルに参加、手挙げられたのは何社ぐらいですかね。

○委員長(田中藤一郎) 土生田室長。

○公共施設マネジメント推進室長(土生田 哉) 1社でございました。この企業体、1グループということでございます。

○委員(西田 真) これのJVだけ。これは、ちなみに地域はどこの人ですかね。

○委員長(田中藤一郎) 土生田室長。

○公共施設マネジメント推進室長(土生田 哉) 関西圏の企業ということで、それぞれ共同企業体ということになっております。受託そのものは大阪支社、

東京のほうにも八州さん、会社はお持ちですけども、受けは関西のほうでという形になっています。

○委員長(田中藤一郎) 西田委員。

○委員(西田 真) こういうプロポーザルのやつ、公共マネジメントのやつなんですけど、あんまり手挙げる事業主がないという感じなんですかね、どうなんでしょうかね。

○委員長(田中藤一郎) 土生田室長。

○公共施設マネジメント推進室長(土生田 哉) 他市の事例を見ますと、まだ多数、多うございました。それと同様なことも考えたんですけども、たまたま今回は1社だけだったというふうに理解しております。以上です。

○委員(西田 真) 以上です。

○委員長(田中藤一郎) よろしくお願ひします。

そのほかございませんか。ないですね。

それでは、ないようですので、続いて、総務部ワークイノベーション推進室、お願ひします。

上田室長。

○ワークイノベーション推進室長(上田 篤) ワークイノベーション推進室からは、ジェンダーギャップの関連のキャリアデザインについてご説明します。

ジェンダーギャップについて私から、キャリアデザインについては岸本参事から説明します。

まず、ジェンダーギャップ解消の取組を全国に情報発信ということで、別冊をお配りしてると思いますが、A4の横長の資料でございます。画面でもご覧いただきたいと思ひます。

まずは表紙に続きまして、2ページ目です。YAHOO! ニュース JAPANと左肩にタイトルでございます。これは今年の7月の中旬、18日、19日の2日間にわたって、豊岡市のジェンダーギャップ解消の取組が、前編、後編ということで紹介されました。これはジャーナリストの治部れんげさんに取材をしていただいて、これ発信していただいたんですけど、3週間で約10万人の方にご覧いただひいて、一時は国内ランキング8位まであったというところでございます。これがきっかけとなって、い



ろんなところから、まだ実際に取組は始めてないんですけど、取組を、ジェンダーギャップの解消を始めますよということに対して、すごく全国的に関心を持っていただいたというところでございます。

次、3ページ目になりますが、左側、治部れんげの図書が、その後の10月1日に発刊されました。「男女格差後進国」の衝撃」というタイトルで出されて、その中で、これも豊岡市の取組が、若者の回復率をはじめ、紹介されました。これによっても、結構いろんな、全国から市長に講演依頼とかがやってきております。

その次です、4ページ目に、行動宣言と書いてます。輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会という、これは全国の企業の経営者とか、首長、約246名から成る組織なんですけど、これ内閣府が事務局を持っておりまして、そちらのほうに、今年の1月から参加をしております。

その中で、それぞれ参加団体の取組をメールマガジンで紹介するっていうことあるんですけど、5ページ目になりますか。ちょっと今年の10月に、先ほどの治部れんげさんの記事を中心に、メールマガジンで各構成団体に発信をいたしております。

次、6ページ目が、9月23日の第1回のジェンダーギャップ解消戦略の会議の記事でございます。

その次のページは、豊岡市の演劇ワークショップ、この戦略会議の中でも、この演劇ワークショップの手法を使ってワークをずっとしてるんですけど、そのことが日経新聞の夕刊で紹介されました。

その次が、先ほどの全国的にいろんな何か反響があつてということで、例えば宮崎県とか京都府でジェンダーギャップ解消というテーマで市長が講演をしております。

その次のページは、中田工芸さんの社内報なんですけど、経営方針の柱の一つに、多様性、特にジェンダーギャップ解消とかを位置づけられて取組をされてる、それを発信されております。

その次、NHKの「クローズアップ現代」の記事なんですけど、これはジェンダーギャップ解消戦略の策定を受託してもらってます株式会社クレアン

の藺田社長がそちらに出演して、豊岡の取組のことまではちょっと言及されてないんですけど、ジェンダーギャップ解消等について発信され、そのことによってNHKの「クローズアップ現代」のプロデューサーからも、ちょっと豊岡市の取組に注目していただいてまして、今後、そういう取材が入る可能性はあります。

その次のページは、浜田敬子さんというジャーナリストなんですけど、「羽鳥慎一モーニングショー」の10月7日において、豊岡でワーケーション、エコハウスでワーケーションしていただいたんですけど、そのときのワーケーションの様子ですとか、併せて、豊岡市のジェンダーギャップの解消の取組をこの番組だったりとかで紹介していただいております。

その右側が、小島慶子さんと同じくワーケーションでエコハウスには来ていただいたんですけど、そのとき滞在されて、この「AERA」の10月26日の記事で、豊岡の取組を紹介していただいたりとか、その下、小島慶子の「小島慶子聴くYouTube」という、そういう発信の中で、豊岡、「コウノトリ」「城崎温泉」「演劇」「若い女性が戻りたくなる故郷」ということで、ずっと数回に分けて紹介していただいております。

その次は、ジャーナリストの白河桃子さんが、「サンデー毎日」だったりとか、月間「地方議会人」において、豊岡の取組を発信していただいております。

最後は、小島慶子さんの発信、また日経の「ARIA」というウェブのサイトで今後発信されたりとか、今度12月に朝日新聞の東京本社のほうから取材が入ってまして、これは多分、年末年始あたりに全国版で発信されるのかなという、そういう感じでございます。結構、まだ取組はこれからなんですけど、何か全国的に専門家だったりとか、自治体とかから関心を持っていただいているという、そういう状況でございます。

続きまして、今度、ジェンダーギャップ解消戦略について、お手元の特別委員会の資料のほうでご説明いたします。

2ページをご覧いただきたいと思います。ジェン

ダーギャップ解消戦略の策定でございます。経緯としましては、2018年度から職場を中心にジェンダーギャップ解消の取組を進めてきて、そこを切り口にして町全体のジェンダーギャップ解消に取り組んできたということなんですけど、今年度は家庭とか地域を含めた町全体のジェンダーギャップ解消の戦略を策定に取り組んでいます。この戦略会議の中では、ジェンダーギャップ解消を自分事として捉えていただくということに重点を置いて、いろんなワークを取り入れながら進めております。従来の戦略策定手法とはちょっと異なる手法を取っております。

それと、今年2月に20代とか高校生に集まっていたいただいて、いろんなワークショップを開いて、いろんな意見を吸い上げたんですけど、その若手の意見とか、経営者のヒアリングなどをしておりますんで、そういう結果を反映させながら、市民主体で地域に根差した未来志向の戦略を検討して、来年3月末の策定を目指して、今準備を進めております。

2の進捗状況の(4)でございます。まず、第1回の戦略会議を9月23日に実施しまして、ここではまず、無意識の思い込みとか決めつけとかに気づくチェックシートを活用したワークを実施しました。それと、高校生とか20代のワークショップの動画も実際委員に見ていただきました。それと併せて、ジェンダーギャップが解消された未来を描いて、個人、家庭、職場とか、それぞれの主体ができることについて意見交換を進めてまいりました。

イです。第2回の戦略会議、11月19日実施においては、有識者に数名入っていただいているんですけど、目黒先生からはジェンダー平等の重要性、大崎さんからは経営者ヒアリングの結果の共有を、田中淳一さんからは長野県の川上村の事例を紹介していただきました。それと併せて、ワークショップも、ジェンダーギャップが解消された豊岡市の姿を実現するための事業案をワークで、ちょっと意見を出していただきました。

第3回、これ一応最終回になるんですけど、この間、12月16日に実施しまして、ありがたい姿の最

終化に向けた検討等で、今回も演劇ワークショップとかを踏まえながらワークを進めて、最後に、それぞれの委員さんの行動宣言を発表していただいております。

今後の予定です、3で書いてます。議会説明、それとパブリックコメントを、できれば来年の2月。それと戦略策定については、来年の3月末にできればということで準備を進めております。

次、3ページでございます。戦略会議の様子、ワークショップの様子を画像でご紹介しております。一番下のところがそれぞれの委員さんからの行動宣言をフリップに書いていただいて、それぞれ示していただいているという様子です。

行動宣言、ちょっとご紹介、一部しますと、特に、ジェンダーギャップを解消して公平で多様性を重視する企業の仲間をどんどん増やしてくんだという行動宣言を書かれたりとか、地域ビジョン計画の中にこのジェンダーギャップ解消を盛り込むんだという意見とか、4つ目ですかね、婿入り修行と情報発信ってことで、これは20代の男性の企業社員の方だったんですけど、こういう発信をされたりと、女性として“豊岡市だから”活躍できる姿を発信して、そしていろんな人を巻き込んでいくんだということを書かれたりとか、女性起業相談件数をどんどん増やしていくんだという、そういうふうな行動宣言をしていただいております。

4ページでございますが、この会議の主な内容というのを毎回グラフィックレコーディングという、グラレコというんですけど、すぐにこういうふうイラストと、あと文字をずっと要約、まとめていくという手法を今回取り入れてまして、その戦略会議の議論が終わった後にも、委員さんに改めて今日の成果というのを確認していただく。それと、対外的にも、その会議で何を議論されて、どういうふうなまとめがなされたのかということのを可視化といいますか、分かりやすくこれで説明してきました。

次の6ページでございます。この第2回の戦略会議、先ほどご説明しましたように、目黒先生以下にそれぞれご講義をいただいて、グループワークをし

ました。

その中で、目黒先生の講義でございますが、ジェンダー平等社会となる条件ということで、女性のエンパワーメント、女性が生き方の自己決定ができる力をつけるという、そのエンパワーメントについてということと、あとジェンダーを主流化していくということについて。ジェンダー主流化というのは、例えばいろんな制度とか政策のあらゆる段階、PDCAの中でジェンダー視点に立ってそれぞれ考えてみるという、そういう手法なんですけど、このジェンダー主流化ということが大事ですよってことと、ジェンダー平等の視点というのは多様性を串刺しする重要性ってのがあるんだってことについてもお話をいただいています。

次のページでございます。それと、アドバイザーの大崎麻子さんからは、経営者ヒアリングの結果をちょっとご紹介いただいています。市内の経営者、これ3名でしたか、ヒアリングをこの夏にさせていただいたんですが、その中で、地域社会では官民事業所、民間、企業が参考にできることとして、まず未来志向のマインドを持つということ。特にバックキャストリングという思考で、今やるべきことを導き出していくことなどについて、経営者のほうから意見が出ておりました。

それと、2つ目としては、仕組みとか制度づくりについて、極力見える化を促進していったらいいということをご紹介、経営者がしていただいています。例えば業務と作業工程を細分化して、見える化して、それぞれ共有していくということ。それと併せて、育休取得を含む柔軟な働き方っていうのを見える化しながらも進めておられるということについてもご報告いただいています。

3つ目に、雰囲気、特に地域の風土っていうか、職場の風土、文化づくりについて、この必要性を位置づけておられて、その中では、丁寧なコミュニケーションによって、これは進めていくっていうこと、その経営者の方からも言われていただいています。そのためには、何でジェンダーギャップ解消が必要かっていうことを言語化して、社員に繰り返し伝えて

るんだっていうこともおっしゃっていただいています。

それと併せて、4つ目としては、外部資源を積極的に活用するってことで、市の主催するワークイノベーションセミナーですとか、実際、外の社労士さんとか人材マネジメントの専門家のコンサルタントに中に入っていただいて、社内のチームビルディングとか、社員さんのモチベーションアップに取り組んでるというようなご紹介もいただいています。

次のページが、今度はオブザーバーとして入っていただいている田中淳一さんから、選ばれる地域になる文化醸成戦略についてお話をいただいています。地方における正のサイクルってことで、ジェンダー視点に立って物事を進める、それが女性が暮らしやすいっていう環境をつくって、それが女性活躍、イノベーションにつながって、結果的に女性がどんどん、若い女性も豊岡に帰ってくるという、これも、それがまたジェンダー視点につながるという、そういうサイクルについてご説明していただいています。

それと、長野県の川上村の女性が暮らしやすい村という中では、5つの新しい幸せ、アイデア実現のチャンスとか、自己実現の時間とかということについて、その課題っていうのをテクノロジーでずっと解決されてる事例もご紹介いただきました。

その次のページには、今言いました、アイデア実現のチャンスから、いろんな未来の可能性等について、具体的に、そういうキーワードをご紹介いただいております。

それと最後、大崎麻子さん、アドバイザーなんですけど、からジェンダーギャップ解消に向けた重要目標ってことで、ジェンダー平等、それと女性と女児のエンパワーメントについて、これ詳しくご説明いただいております。さらに最後に、ジェンダー視点で保育・教育の段階から、このジェンダー視点を取り入れる必要性についてお話をいただいております。

途中、グラフィックレコーディングのところ、ちょっとさらっとご説明したんですけど、グラフィックレコーディングという、グラレコ、ご紹介した

2つ目のところに、ちょうどセンター、真ん中のところに、実現のための6つの手段ということで書いておまして、第3回の戦略会議の中で、第1回、第2回と、戦略会議の委員さんから、ワークでどんどん上げていただいたキーワード等をまとめて、ジェンダーギャップが解消した豊岡市を実現するための6つの手段として、6つ、これはまとめて整理させていただきました。1つは、ジェンダーギャップ解消の必要性が十分知られてるってこと、その右側に行きまして、地域において男女がともに意思決定と方針決定に参加してるっていうのが2つ目、3つ目が、女性も男性も働きやすくて働きがいのある事業所が増えている、これが3つ目。4つ目が、家庭において男女が家計責任、世帯収入の稼ぎ頭という部分と、ケア責任、これは家事、育児、介護なんですけど、を分かち合ってるっていうのが4つ目。5つ目が、ありがたい姿に向かって生き生きと暮らす女性が増えている。最後は、6つ目が、子供たちがジェンダーギャップの解消の必要性を自分の言葉で語ってるという、この6つに一応整理させていただいております。

あと、グラレコでは、ジェンダーギャップが解消された豊岡市と、逆に解消されなかった豊岡市について、委員の皆様からそういうイメージをそれぞれ出していただいて、まとめております。後ほどご覧いただきたいと思います。

私からは以上でございます。

○委員長（田中藤一郎） 岸本参事。

○ワークイノベーション推進室参事（岸本 京子）

それでは、私からは、キャリアデザイン推進事業の中の各種研修における成果と課題等についてご説明をさせていただきます。

11ページと12ページなんですけれども、12ページのほう、先にご覧いただけますでしょうか。

2020年度の実施研修の一覧を書かさせていただいております、11月の委員会のほうでも説明をさせていただいている資料でございます。7種類、12こま、研修を既に実施をしております、350名余り、延べ人数で研修を受けております。

最下段なんですけど、現在、12月議会のほうに補正予算をお願いしている最中です。これがお認めいただきましたら、もう一つ、研修が追加になるというような内容になっております。

本日、11ページに戻っていただきたいんですけども、説明をさせていただく内容としまして、この全ての研修における総括ということで説明をさせていただきます。

この総括の中の、1の（1）、（2）に記載しておりますのは、受講後の受講者のアンケートを基に総括的にまとめたものになっております。

まず、1つ目ですが、2020年度は、問題解決の手法を用いた研修プログラムとして、受講者はキャリアを体系的に考える機会となり、目指すべき姿の具体化や、目標を立てて行動することに大切さの気づきを与えることにつながったということになります。

2つ目に、日々の業務においても、問題解決手法を活用することで、業務の質が向上するという実感をつかむことができたという意見が寄せられています。アンケート、特出しをしておりますが、アとイです。全体を通してマインドセット、自身の習性として根づいた物の見方や考え方のことですが、マインドセットにおいて「変化があった」と回答したのが7割以上、またイでは、スキル研修において「活用イメージが湧いた」と回答しているのも7割以上という結果になっております。

2つ目に、講師の評価を記載させていただいております。3点です。

1つ目ですが、継続的にキャリアを検討することが重要で、様々な価値に触れるなど、職員一人一人が具体的なキャリアを描くためには、継続的な研修機会・実践の場を提供するとともに、各職場が必要とする職員像を整理し、それぞれ示すことが必要だということ。

2つ目に、問題解決能力とコミュニケーションスキルについて、苦手と感じている職員が多いという印象でした。日常業務で活用しながらスキルアップすることが重要になってまいります。

3つ目です。信頼関係づくりは、チームで仕事をしていくための重要な要素の一つ。コミュニケーション力を磨き、さらに面談スキルを向上させる必要があるというような評価でした。特に面談スキルにおいては、12ページのほうのコーチング研修のほうで、1on1ミーティングの手法を活用するというような取組を進めておりまして、ここを充実させることで、職員とのコミュニケーション、あるいはご自身のコミュニケーション能力がアップしていくという期待を持っております。

3つ目に、課題についてです。今年度の研修を検証しました結果、強化すべき取組と考えている点は以下のとおりとなっております。4点上げております。

まず1つ目に、研修で学んだことを習慣化すること。業務の質の向上とキャリア形成を後押しするためです。

2つ目に、学びと成長サイクルの加速。繰り返し繰り返ししていくことで成長を促すという必要がございます。

3つ目です。自律的なキャリア形成の継続的な支援。1回研修をしたからといって、キャリア形成意識は身につくものではありませんので、様々な場面を捉えて、こういった支援を行っていく必要があると考えています。

4番目です。チームの関係性向上に必要な上司のコーチング力強化。先ほど申し上げました1on1ミーティングを活用したコーチング力を強化する必要があるというふうに考えております。

総括的な内容になりますが、以上、私のほうからの説明です。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ジェンダーギャップが各地で、豊岡市の取組が評価をされてということで、そのこと自身は別にどうこうということないんですが、そこまで評価されながら、もともとこのジェンダーギャップに取り組むってのは、女性に選ばれていないとい

う、市長の何遍も言うフレーズ、この点で既に何年か取組がされてきてるんですけども、女性に選ばれるまちに一步でも近づいてるという実感はお持ちですか。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） まだ一步までは行ってないと思います。0.01歩ぐらいとか。

○委員（村岡 峰男） そんなもん。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） といいますのは、2018年、2019年と、2か年、市内の事業所の女性社員さん対象に、3回シリーズでキャリア形成の支援というセミナーを専門家に来ていただいてやったんですけど、それを受けた女性、たまたま何かでお話をお聞きすることができて、その後、大分たってから、ここちょっと2年ぐらいで少し変わってきた気がするというふうに、20代の女性だったんですけど、市内の事業所にお勤めの、というようなお話をちょっとお聞きしたりしてるんで、少しずつは、すぐに、例えば一步どんと変わってきたというわけはまだ行ってないと思うんですけど、少しずつですけど、ちょっと変わりつつあるのかなということと、さっき村岡委員におっしゃっていただいたように、まだまだ豊岡の取組が全国的に評価されてるっていうより、今まで、女性活躍とか男女共同参画っていうように言ってきたもの、取組じゃなくて、あくまでジェンダーギャップの解消という、男女格差があって、それを解消していきますよという、その取組をしますという、その部分で、まだ今評価されてるところで、今後、戦略ができて、それに沿って取組をどんどん進めていく、格差を解消していくという、取組について、ぜひ評価をされるように、ちょっと頑張っていけたらなと思います。

○委員長（田中藤一郎） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） ぜひ頑張ってもらいたいと思います。

それともう一つは、ジェンダーギャップをいうときに、自治体によっては、同性婚を認めるだとか、

同性婚ね、いろいろの心の問題いうのかな、差別による、性によるの、何ていうの、うまく言えませんけども、いろんな言葉がありますね……（「LGBT」と呼ぶ者あり）だとかで、体は男なんだけども、心は女性だとか、逆だとか等々の人たちに対する取組っていうのもあるように思うんですが、その辺のところまでは考えてない、そういう問題については。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今おっしゃってました、選択的別姓でした、これは第5次の、今、国が進めてる男女共同参画基本計画の中でも、国のほうでかなり議論されて、若干ちょっと後退する表現になるというように聞いてます。それはいろんなお考えがあつて。ですから、これについてはなかなか地方レベルでぐいぐいってというより、やっぱりちょっとまず国のほうで、ちょっとそれは整理していただいて、というスタンスなのかなと思います。

それと、あとはLGBTとかの多様性の部分については、実際、市役所にそういう該当者の方からのお電話をいただいたということも実際ありました。今回のジェンダーギャップ解消戦略の中では、あくまで、その多様性の中でも、まずは男女という部分について、その格差をちょっとでも減らしていこうという、その取組でございまして、その中で、今後、多様性を考える中で、やっぱりLGBTとかについても配慮していった、その考え方っていうのも今後整理していく必要があるのかなと思ってます。今回の戦略の中では、具体的な記述まではまだ至らないのかなと思います。まず男女でってことです。

○委員長（田中藤一郎） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 結構です。

○委員長（田中藤一郎） いいですか。

○委員（西田 真） よろしいか。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） ちょっと何点かお聞きするんですけど、参考までに教えていただきたいのは、国内ランキング8位と、まだこれからなんですけど、いろんな取組を紹介されての8位、いろんなところが

取り上げてくれての8位だと思うんですけど、全国、ちなみにいろんなところでやっと思ってるんですけど、全体はどれぐらい、もう全国でしとるんですかね、そして、参考までに、全国1位から3位まで、ちょっと分かれば教えていただきたい、それが1点。

そして、市役所内の今の男女比っていうのはどれぐらいですかね。最近、市長の発言では、最近の採用は半々ぐらいにしているということも聞いてるんですけど、今現在の市役所内の男女比ですね。

そして、管理職の女性の登用がまだまだだと思ってるんですけど、どれぐらい女性の管理職の方がおられるんか。

そして、育休の取得ですね、女性はほとんど育休は取られるんでしょうけど、最近では男性の育休いうのもいろんな報道等でお出てるんですけど、市役所内の男性の育休、どれぐらいな感じであるのかなということは、ちょっと教えていただきたい。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 4点、お願いします。

上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） まず、1点目は、ご質問いただきました、全国ランキングで8位だったんですけど、全国的な、例えばジェンダーギャップ解消の取組についてなんですけど、例えばある企業っていうんですか、東京にある企業の方が、内閣府のサイトから、今の地方創生戦略の中で、どれぐらいジェンダーギャップ解消について取組を盛り込めるかということ調べられた方が、会社があつて、そしたら、全体で1, 700自治体があつたとしても、何かそれぞれ複数、地方創生交付金をもらうための地域再生計画というのつくっておられて、それが5, 000本ほどあるようですが、豊岡はもう6本ぐらいなんですか。その5, 000分の1だったようです。全国で地方創生総合戦略の中にジェンダーギャップの解消を位置づけてるっていうのは豊岡市だけでした、これは10月の時点で。それが11月になってから、山口県の柳井市が、ジェンダー平等の推進について位置づけられて、それから、ジェンダーについて、その

地方創生の総合戦略の中で位置づけてるのは、今まで全国で2つしかないというところがございます。あとは大体女性活躍とか、男女共同参画とかということ、地方創生総合戦略で位置づけられてるところは、100とか200とかあるんですけど、ジェンダーについてはそういう状況です。

8位になったときの1位から3位なんですけど、たしか季節的な、コロナ絡みのニュースが上位には入ってたと記憶しています。（「分からないということ」と呼ぶ者あり）すみません。

○委員長（田中藤一郎） そのほかのことは、岸本参事。

○ワークイノベーション推進室参事（岸本 京子）

まず、職員の男女比なんですけれども、ちょっと手元に資料を持っておりませんので正確な数字は申し上げられないんですが、男女比で大体7対3ということになってます。3割は少し女性は超えていたかというふうに記憶しております。

それから、男性の育児休業の取得ですが、2019年度は7名、2020年度は11月末現在で11人の取得をしております。今年度、11人ですが、現時点での母数が変化をしますので、大まかな数字なんですけど、大体これ、5割程度取得をしているという状況になっています。

それから、申し訳ございません、実は女性の管理職は10.3%です、ですので、残った分が男性なんですけども、前年度よりも少しアップをしているという状況になっていると思います。すみません、具体の正確な数字が申し上げられなくて申し訳ありませんが、そのような状況です。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 1点、修正をさせていただきます。先ほど地方創生の総合戦略の中に位置づけているのが豊岡市、ジェンダーギャップ解消は豊岡市だけだったというようにご説明したんですけど、その地方創生の交付金をもらうための地域再生計画に位置づけているのが5,000分の1で、ジェンダーギャップ解消は豊岡市だけでしたということでした。ちょっと修正させて

ください。すみません。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） ちょっと後で資料を出していただきたいのは、市役所内の男女比をちょっと教えていただきたいのと、ほんで、先ほど言いました管理職ですね、10.3%ぐらいと言われたんですけど、全体の管理職、それぞれ課長、部長、要りませんけど、全体の管理職、何人、そのうち女性が何人、そういうのを教えていただきたい。それぐらいですかね。

委員長、その資料要求お願いしたいと思います。その2点、お願いできますか。

○委員長（田中藤一郎） じゃあ、よろしくお願いをします。

そのほかの方、ございますでしょうか。

関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） 今、西田委員の要求資料にプラス、この過去3年の職員受験者の男女比。それは、できれば5年以内にしてください。

○委員長（田中藤一郎） 成田部長。

○総務部長（成田 寿道） 今の資料要求は、3年間の受験者というの、1次試験の受験者ということ。受験者した人ですね、申込者じゃなくて。

○委員（関貫久仁郎） 受験した人。

○総務部長（成田 寿道） 1次試験ですね。

○委員（関貫久仁郎） 過程を入れてもらえば、2次はこうなったとか。それがよう分かってええわ。

○総務部長（成田 寿道） 経過も。

○委員長（田中藤一郎） 経過もよろしく。大丈夫ですか。

○総務部長（成田 寿道） ちょっと時間いただければ。

○委員長（田中藤一郎） よろしいですか、関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） もう一つ。

○委員長（田中藤一郎） もう一つ。

○委員（関貫久仁郎） それと、今度は資料のほうで、ご説明受けた、この件の中身の、何ページかな、ページが出てこない、ずっと後ろのほうに、「サンデー毎日」2020年11月15日の「本のある日々」

なんていう画面のことなんですけど。

○委員長（田中藤一郎） 13ページですか。

○委員（関貫久仁郎） 13。そこに、豊岡市のジェンダーギャップ解消の取組の紹介という文字と、それから、右側の写真の女性、白河桃子さんの横に、男尊女卑が根強い地域では、豊かになっても女性は戻らないという文言が書いてあるんですけども、当市で感じるどころが何かあるでしょうか。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） これ、結構、男尊女卑が根強い地域では、これ豊岡ではなくて、佐賀県の男女共同参画センターが調査した、各地域、都道府県レベルのジェンダーギャップ指数、国だったら153国中121という2019の世界経済フォーラムの数値あるんですけど、この都道府県別を調べられたようで、そのジェンダーギャップ指数、男女格差が少ない地域では、例えば県民所得が高くて、女性の定着率、若い女性の定着率も高いという、そういうふうなエビデンス、証拠、データがあるっていうことを発表されて、それに基づいて、これを書いておられるのかなと、白河桃子さんは、というふうに推測してます。

○委員（関貫久仁郎） いや、それは、だから、豊岡にはあると感ずるかっていう。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） これは豊岡に限らず、地方では基本的に男性中心社会のありようっていうのはあると思います。それはやっぱりレベルの差はあるでしょうけど、それは地方においては特にこれはあるというふうに思ってます。

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） そういうところで、場面場面でそういうことを感じるどころがどっかにあるのかなということだと思っんですけどね。

そしたら、これはちょっと国の制度になるか分かんないんですけども、豊岡市として今できることならば結構ですけどね、今、男性中心主義という言葉がありましたよね。それが全国各地、豊岡にもまだ

まだあるだろうという思いがあるとおっしゃったんですけども、その男性中心主義を象徴させるべく行政活動の一つとしてね、世帯主制度っていうのがある。それと、世間で今、戸主っていうようなことで、動かなきゃいけないとかよくあるわね。その辺解消してみたら。豊岡市として、できる。（「質問ですか」と呼ぶ者あり）できますかって。

○委員長（田中藤一郎） 成田部長。

○総務部長（成田 寿道） 世帯主の関係は、さすがにちょっと豊岡市だけで登録を変えてどうのこうのっていうことは難しいと思いますが、地域でいう代表者っていうんですか、戸主っていう、昔は言い方だったと思うんですが、各自治会でいう代表者については、別に行政側から、半分は女性でないといけないとかいうことではなくて、そういう、女性でも代表者になっていただいて全然構わないし、区長になっていただいても構わないというスタンスはあるということぐらいしか、どうしてもそうしてくださいということまではちょっと言えないなどは感じてますけど。

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） 言い分はそうなると思うんですけども、でも、民間というか、地域はそんな感覚が全くないんでね。それはやっぱり女性の感覚っていうの、強く大きく影響してるし、男性の、わしは戸主やという意味よりも、お父ちゃん、あんたが男だろうということ、そういうふうにしてる家庭がもう大半だろうと。だから、そういうふうにするんだったら、その部分だけでも、市としてPRでももっともつすればと思っんですけども、いかがですか。

○委員長（田中藤一郎） 成田部長。

○総務部長（成田 寿道） おっしゃることが、そうだと思いますが、あんまり直球でいくということになると、逆にいろんな家庭もありますし、男女、夫婦関係もあろうかと思っるので、そうではなくて、先ほども次長のほうから言っておりました、地道に、まだ0.01歩らしいですので、それが0.02歩になるように、やっぱりじわっと攻めていくという



ことと、あと、やっぱり若い女性、未婚の女性も含めてですけども、は少しずつ変わってきてるような気はします、家庭の中で。ですから、その辺を後押しできるようなことで進めていくというのが、今のところは動きかなというふうに感じてますけど。

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） 頑張ってください。

○委員長（田中藤一郎） 井上委員。

○委員（井上 正治） ジェンダーギャップ、これは大変いいことで、日本の文化がそういう社会をつくり上げてきたという結果が、今も現在も続いているということだと思うんですけども、やはりここで改革をしていこうと思えば、地域、今、コミュニティが29地区にあるわけですけども、そういうところからもいろんな発信をしていくべきだろうと思えますし、先ほど関貫委員も言われたんですけども、豊岡市内に区長さんで女性の方っていらっしゃるわね。そういうところからの改革というのも、何かの形でこれからはやっぱり取り組んでいく必要があるのではないかなというふうに思いますので、本当に変えていこうと思えば、トップも変わってくるということが、一つ大きな改革につながってくるのではないかなというふうに思いますけども、その辺のお考え、いかがですか。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今、委員ご指摘のとおり、地域、かなりすごい固い岩盤だと思ってます、ジェンダーギャップ解消については。あまり何か、例えば過去とか現在については、それを否定するんじゃなくて、今回のジェンダーギャップ解消戦略の中では、特に若い子らの意見をかなり聞いて、それを戦略の中に反映させようとしている。それについては、特に未来志向型というふうに名づけてるんですけど、例えばおじいちゃんとか、地域の中でジェンダーギャップ、仮にですよ、男性中心社会の中心におられる方に対しても、やっぱり現在とか、そういう、駄目ですよって否定するんじゃなくて、あくまで、例えば、皆さんの子供さんとかお孫さんがここで暮らしていける未来を考えた場

合に、特に女の子とかのこと考えたら、本当に今のこの状況でいいんですかねというあたりを、来年4月以降に、地域の中にそういうことも実際ワークっていうか、体験していただくような、ご自身に無意識のうちに思い込みとか決めつけとか、性別、役割分担とか決めてしまってるということ気づいていただくようなワークを交えながら、モデル地域とかを設定して入っていきたい。そこからどんどん広げていけたらというふうに考えてます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 井上委員。

○委員（井上 正治） 今、それぞれコミュニティで活動されてるってことですけども、なかなか限られた方の人材で運営されているというのが現実ではないかなと思うんですね。そこにやっぱり若い人たちの感覚を入れ込んできて、そこに男女格差をなくしていくような取組、そして、いうふうな形を少しずつやっぱり取り入れていって、若い子が、ああ、こういうふうな地域というのは活動して、つながっていくんだなというふうなことの流れをしっかりとやっぱり植え付けていくことが、住みやすいエリアになってきたり、地域がもっともっと、どう言ったらいいかな、コミュニケーションに優れて、いろんな形が、お互いが認め合うということになると思いますので、しっかりとやっぱり全体を見据えて、地方にも、地域にもしっかりとそういうものを根づかせていくということは大事かと思うんですけど。最後、どうぞ。

○委員長（田中藤一郎） 上田室長。

○ワークイノベーション推進室長（上田 篤） 今回、このジェンダーギャップ解消戦略の会議の委員さん、10名、多様な方入っていただいていたんですけど、そのうちのお一人に、日高の地域コミュニティの西村さんに入っていただいて、その地域コミュニティの立場からどんどん意見をいただいて、ワークもしていただいてという中で、最後の行動宣言を、地域コミュニティの西村さんがされるときに、もう何か寝ても覚めてもジェンダーギャップの解消というのが頭から離れんようになっちゃったわいやって言うっておられるぐらい、何か本当に真剣に

考えていただいて、今後、特に地域でどんどんどんどん、この考え方っていうの普及していく際に、そういう西村さんのいろんなアドバイスとかはいただきながら、これは進めていきたいなというように考えております。

○委員（井上 正治） よろしくどうぞ。

○委員長（田中藤一郎） よろしいですか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 中貝市長、来年出るか出んか知りませんが、今、副市長、2人おりますよね。副市長が2人も必要なかどうかということも議論してほしいんだけど、私自身は、1人の副市長もたくさんありますからね。2人も副市長置くんなら、1人ぐらい女性を起用したらどうやということ、ジェンダーギャップの推進室から市長に提言をするようにとかなんですかね。来年もされるのであれば、ぜひそうしてくれと言って、推進室からやな、指導をしてやってください。

○委員長（田中藤一郎） 成田部長。

○総務部長（成田 寿道） ありがとうございます。

先ほどの職員の女性の管理職の話もありましたけども、ハーフで、50、50でなればいいじゃないかということは単純には分かるんですけども、数字合わせではいけないというように思います。やっぱりこれまでの職場でのいろんなやり方というか、女性に対しての、育休があって昇進が遅れたりっていういろんな部分と、キャリアの部分、そういうものがあって今になってるっていうのがありますので、そういう面で、職員はそういうふうに状況が一遍には変わらないというのが事実、ご理解いただきたいと思います。

副市長については、そういう、いい方がおられたら、そういうことも考えられるんじゃないかというように思いますので、機会があれば伝えておきたいと思います。以上です。

○委員長（田中藤一郎） よろしいか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） せっかく全国を駆け回ってるわけですからね、先頭を切っていると。ですから、当

然そういったことも視野に入れて、自分が行動していただきたいなというふうに思っております。助言をよろしく。

○委員（西田 真） 委員長、よろしいか。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） 今、部長が言われたんですけどね、育休を取って昇進が遅れるとの方と、そういう育休を取ったら昇進を、その辺が査定が変わるんですかね。それはぜひなくしていただかんと、育休を取る機会が、特に男性はなくなりますよ。その辺は市としてしっかりとやっていただきたい。どうですか。

○委員長（田中藤一郎） 成田部長。

○総務部長（成田 寿道） すみません、言葉が足らずで、育休を取ったら昇進が遅くなるっていうことではございません。育休を取ることによってキャリアの積み方が、男性で育休を取ってない人と比べたら、そのキャリアの分が年数が変わったりするということで、その分で、それをフォローする体制が今まではほぼなかったという状況があったということをお伝えしたかったんです。そういうことで、例えば育休から復帰された場合でも、やっぱり前と同じ窓口業務であったり、課の庶務的な部分を中心に仕事、配属がされていたと、そういうような考え方があったので、女性の管理職になる比率がどうしても今少なくなってるんですよということが言いたかったんですけども、育休によって、それが遅れるっていうことではありませんので、申し訳ありません。もしあれでしたら、訂正させていただきたいと思います。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） 今、訂正されたんですけど、ぜひ男性でも女性でも、育休を取ったから昇進が遅れるということは絶対にないようにしてもらわんと、その育休制度自体が何やねんって、豊岡市はと思われましてね、その辺はしっかりと対応していただきたい。

そして、委員長、先ほどの要求資料で、管理職の男女数だけと言いましたけど、管理職ごとでお願い

したい。課長の男性は何人、女性は何人、そういう格好で管理職の、それぞれことをやっていただきたい。委員長、それお願いしていきます。

○委員長（田中藤一郎） 今の件、どうぞよろしくお願いをいたします。

よろしいですか。

時間も少し、時間が過ぎましたので、ここで一度休憩を取りたいと思います。

委員会を暫時休憩にします。再開は45分、45分から。

午前10時37分休憩

午前10時44分再開

○委員長（田中藤一郎） それでは、委員会を開会します。

続いて、健康福祉部健康増進課、お願いします。宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） それでは、13ページをお願いします。

結婚支援事業の推進についてでございます。その中で、概要及び進捗状況の項目のところをご覧ください。以下、人数とか組数の横に、ちっちゃい括弧書きの数字があると思いますが、それは前回、11月の事務概要説明からの増減の数値を記載しております。それでは、まず1つ目、出会い機会創出事業、は一とピーと言われてるものですが、これについては8月から毎月開催してまして、今で、12月まで実施しております。もうあと1、2、3と、一応、月一のペースで開催を予定しております。県の出会いサポートセンターのガイドラインを参考にガイドラインを作成としてますが、基本的にはマスクの着用だとか、定期的な換気、それから手指消毒ということで事業を実施してありまして、今までアルコールの提供もあったんですが、今はその提供はなしで、お菓子とかコーヒーということで、事業を実施しております。

次に、2番目の出会い機会創出事業、恋するお見合いですが、10月には実施いたしまして、今度3月の4日から13日、第四章ということで開催を予

定しております。次に、3番目、ボランティア仲人養成事業、縁むすびさんの事業ですが、ここは粛々と事業を実施してありまして、今回、コロナ禍ということで、下のほうに、おんとおふ、7月の29から8月2日ということで、オンラインのお見合いとか、それから交換日記というのを実施してみようということでしたが、結果的にはオンラインお見合いはゼロ、交換日記が3組ということでした。どうも聞いてみますと、やはり直接会ったほうがいいのかということでしたので、結果としてはオンラインお見合いゼロということになってます。一番下のほうに、各事業で成婚の報告数、今年度報告のあった分を記載しております。説明は以上です。

○委員長（田中藤一郎） 説明は終わりました。

質疑はありますか。

○委員（西田 真） 1点だけ。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） 縁むすびさん、いろいろと一生懸命やられとるんですけど、これは日本人と限らず、もう外国人でも、その辺は全然構わないというようなスタンスでやとられるんでしょうか、どうでしょうか。

○委員長（田中藤一郎） 宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） 縁むすびさんが結婚させたいという方がメインになって、すみません、ちょっと外国人さんがおられるかどうかの把握までちょっとしてませんでしたので、そこは確認をしときたいなと思います。

○委員（西田 真） 拒んではいない。

○健康増進課長（宮本 和幸） 拒んではいないというか、縁むすびさんが、この方を結婚させたい、豊岡市民というか、豊岡市におられる方ということで対象にしておりますので。

○委員（西田 真） それだけです、結構です。

○委員長（田中藤一郎） そのほかございますか。

○委員（村岡 峰男） ちょっとだけ。

○委員長（田中藤一郎） 村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 今の続きみたいな話なんだけど、この縁むすびさんの登録者というのは、結婚し

たい男女ですね、この登録者は豊岡の市民じゃないとあかんのか。

○委員長（田中藤一郎） 宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） 豊岡市民、もしくは在勤ですね、勤めておられる方。

○委員長（田中藤一郎） 村岡委員、よろしいですか。

○委員（村岡 峰男） そしたら、うちの息子はあかんということやな。（「どこにおられる」と呼ぶ者あり）豊岡出身でもなかった。（「豊岡に住んでくれない、その保証がなけりゃあ」「豊岡出身でもええにせなあかん、そんな」「持っていかれちゃうわ」と呼ぶ者あり）

○委員長（田中藤一郎） 宮本課長。

○健康増進課長（宮本 和幸） これは縁むすびさんっていうのは、そもそもお世話をしていただく方が豊岡市在住であったり、在勤であったりやで、自分自身が気になっていて、例えば仕事のお付き合いだとか、本当に子供さんという方も当然おられるんですが、気になっていて、どうにかしたいと思っておられる方をお世話いただく。うちがやるからには、やっぱり豊岡に住んでいただくことを前提としたと思います。ですので、今言ったような、基本、条件はついております。豊岡に戻ってくるという確約があるのか、ないのかということも含めてですが、神戸のほうで例えば結婚して、そのまんま神戸で幸せになってくれたらええなっていうのは、それはそれでええんですが、豊岡市が施策としてやる部分ということでいうと、そういった条件はつけさせていただいておるといのが正直なところでございます。

○委員（村岡 峰男） ありがとうございます。

○委員長（田中藤一郎） よろしいですか。

○委員（村岡 峰男） いいです。

○委員長（田中藤一郎） そのほかないですか。

ほかにないようですので、続いて、環境経済部環境経済課、お願いします。

午菴課長、お願いします。

○環境経済課長（午菴 晴喜） それでは、引き続き資料の14ページをご覧ください。まず最初に、移

住定住関係の、移住等相談状況についてご説明をいたします。11月末までの現在の問合せ件数の合計が404件、前年度の同時期が151件ということで、約2.7倍ということで、相談件数の比較の数値、全体としては依然高い状況が続いているのかなというふうに思われます。ただ、2020年度の4月から11月まで書いておられますとおり、少し7月はピークと、この中ではございますけども、ピークとして少し下方に向かっている部分もあるのかなということで、この辺、何月が多いという、ちょっと今回コロナ禍もありまして、季節性なのかは判断できませんけども、コロナが落ち着いている頃に少し問合せが多いのかなというふうな気はしてございます。

中段の表はオンラインでお尋ねがあった、ご相談があったという件数でありますので、ご覧いただいて、下段のほうは棒グラフにしたということで、7月が多く、次が10月が多かったという相談の状況となっております。

めくっていただきまして、15ページでございます。今の相談の関係につきまして、年齢別、性別の内訳でございます。従来からということで、この後、きっかけだとか県別だとかは出てきますけども、相談いただいたときに必須でお答えいただいてない部分がございますので、不明だとかっていうことがありますが、ご了承いただきたいと思えます。年齢別につきましては、20代、30代、40代の方が結構多くて、この3つの区分だけで約58%ということで、半分以上の相談が多いということで、若い方の相談が結構、やっぱり大目に推移をしているという状況が続いています。

下段のきっかけでございまして、表の下には書いておりますけれども、豊岡市の「飛んでるローカル豊岡」というサイトを入りに、電話ですとかメールの問合せが多くございます。それと「SMOUT」といって、2019年8月から活用している民間のサイトでございまして、移住をした人と移住を受け入れたい地域のマッチングサービスを行っているというサイトがございまして、そ

ちらを經由して情報発信をさせていただいている部分で、結構見ていただいて、問合せがあるという成果につながっていると思われま。

16ページは、都道府県別の内訳となっております。2桁のパーセンテージを持っているのは、中段より少し上の東京都、それから中段ちょっと下、大阪府、兵庫県というような、関西圏と関東圏の、関東圏といいましても東京になりますけれども、そういったところからの問合せが多い状況というのが見てとれるかと思ひます。

めくっていただきまして、17ページでございます。移住者の状況ということで、今回、地域おこし協力隊員等含まない数字ということで、載せていただいております。2019年度の数字の11月と、今年2020年度の11月のところの比較ということで、ご覧いただければと思ひますが、対前年で156%ということで、去年の同時期に比べて、移住者は増えている状況にあるかと思ひますが、前年より増えるかというのと、またその辺はやっぱり波があるというふうな感じになっているかと思ひます。

アの地域別でございます。こちらは豊岡市内のどのエリアにということになりますけれども、50人、25組の方はそれぞれ竹野以外のところで、今のところ定住を、移住を進めていただいているというふうな感じになっております。

最下段、イの年齢別につきましては、大体の50人の方の年齢内訳ということで、若い方がいらっしゃいますけど、家族で来ていただいて、お子さんがいらっしゃってというふうなことになるかと思ひますので、中心は30代、40代の方というふうなところがやっぱり高い人数を占めているというふうに思ひます。

続きまして、18ページは、移住者の方への支援の状況でございます。表の左側の①番、移住促進支援事業、来訪時の支援というようなことで、宿泊の費用ですとか、高速代ですとか、自動車借り上げはコロナ禍もあって、レンタカー等の借り上げ等、新設をさせていただいております。11月までそれぞれ記載をしているような件数で利用をいただいて、

延べ件数ということにはなりますけれども、114件で39万6,100円というふうな金額を今、補助をしている途中でござひます。

②番のほうは、定住促進事業ということで、移住時の、それから、その後の新生活というようなこと、特に大きなものは住宅の改良等の補助ということで、従来からやっている部分ではござひます。18件で1,092万1,000円というふうな支出。それから、今年度の9月からですけれども、民間の集合住宅等に引っ越しをされた場合の引っ越し費用ということでさせていただいているものが4件ということで、新たに出てきているところでござひます。運転免許等の補助も生活として必要であろうということでは持っておりますけど、今のところ利用はないというふうな状況でござひます。

その他でございますけれども、清掃等の費用の補助と、来られた方のお米をプレゼントということで、お米のほうで4件ござひます。お米はプレゼントするだけでなく、移住者の方が初めてこちらに來られて、農家の方ともつながりができてというふうなことも期待をしておりますので、その後のつながりも少し役に立つのかなというふうに考えてござひます。

中段のAでござひますけれども、先ほどの114件の地域別の主な内訳で、実数としては40件となりますので、40件の内訳としては、関東、関西というものがおおむね多くなっている関係がござひます。先ほどの問合せ、相談の件数のところも似たような結果になっているかと思ひます。

イの②番のほうの内訳でございます。住宅の改修と引っ越しがセットのほうで12件、それから、引っ越しのみというのも対応しておりますので、こちらが6件というふうなことで、それぞれ利用地区の内訳数も書いております。この住宅改修を使う場合は、「飛んでるローカル豊岡」というものに掲載をしている物件が対象物件ということになりますので、その物件に入られる場合というようなことが条件がついております。

ページめくっていただきまして、19ページは、

地域おこし協力隊の関係ということで、ご報告させていただきます。

12月1日現在で隊員は28人が豊岡市内で活動しております。28人の名簿につきましては、20ページのほうに少し小さいですけども、掲載をさせていただいております。隊員につきましては、今後、今、始まっております12月募集も考えておりました、12月15日から1月20日までの期間ということで、19ページに記載しております13人、それぞれの受入れ団体と調整をしながら募集をさせていただいております。既にいらっしゃって追加で募集するところや、新しくするところ、あとは継続で募集をするところ、過去に募集をしたんですけど、残念ながらなくてというところも含まれながらの、10メニューで13人を募集したいというふうに考えております。

20ページは、先ほど申し上げました28名の方のそれぞれの地区、または市全域に共通のというようなことで、区分としては全域というのを一番上に設けておりますけれども、28名の方が頑張っていたというふうな状況になろうと思います。

最後、21ページでございます。その他、UIターン推進ということで、企業説明会をオンラインで、今後の予定でございますけども、3月の7日、8日にウェブで予定をしております但馬企業70社程度が参加予定というふうに聞いております。この合同企業説明会が2018年度までは大阪にて、リアルな説明会をさせていただいておりますけれども、2019年度はできなかったということで、失礼しました、2019年度はできず、2020年度についてはオンラインで開催をしたというふうなこともございます。

次の(2)番に、若者Bookということで、これも就活応援ということで、冊子を作成し、これと企業版の情報の電子ブックというものを組み合わせたものを今年度、初めて作っております。今日のそれぞれのところに、先にこういった、「TOYO OKA WORK STYLE」という冊子と、それから、この豊岡就活の大きいほう、これ2021

年度のもので、前年度のものになりますが、例年はこういったものを冊子で印刷をして、大学の3回生ですとか、短大の1年の方のおうちに送っていたということで、それなりに結構な量になるんですけども、少し小さくして、今回はこういった、まず仕事ですけど、実際に働いていらっしゃる人物を紹介をさせていただくというふうなスタイルのものにして、この最終ページのここに二次元バーコードっていう、こんなバーコードがついてます。今の若い方だったらスマホを大体お持ちだと、スマホをかざしていただいて、ここの仕事だとかっていうところから入っていただいて、それぞれ興味のある企業。興味のある企業っていうのも、市がやっておりますジョブナビ豊岡という企業の、登録された企業となりますけども、そういった情報を発信している部分に連携をして、そこを見ていただいてというふうなことで、そういった、少しコンパクトにし、就活の応援もさせていただくというふうなことで、進めております。

環境経済課からは以上でございます。

○委員長(田中藤一郎) 説明は終わりました。

質疑はありませんか。

○委員(西田 真) よろしいか。

○委員長(田中藤一郎) 西田委員。

○委員(西田 真) 何点かお尋ねいたします。

移住者、2019年、46人の28組。2020年、これ11月末でしたか、50人、25組で、頑張っておられるかなと、私の感想はそう思います。そして、この移住者が退去ですね、豊岡市に移住したけど、やっぱり帰るわとか、そういうのがあれば理由も教えていただきたい。それがまず1点。

そして、移住をして、ほかの自治体でもやっとなるんですけど、移住して、例えば10年住めば、土地も建物も無償であげますよというような考えがあるかどうか。

そして、地域おこし協力隊、この隊員数、今28人ということなんですけど、今までも隊員さん来られとるんですけど、その人たちのその後の豊岡市の在住者、どれぐらい協力隊がおられて、何年は、そ

して、何年は、そのまま住まれてるとか。そして帰られたとか、その理由も分かれば教えていただきたい。以上です。

○委員長（田中藤一郎） 3点。

午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） まず、移住者の方で退去された方があれば、理由もということでございます。実際にはあるかと思いますが、詳細まで把握していないというのが実態でございます。移住されても帰られたか、また転居されたとかというのはケースとしては考え得るかと思いますが、今申し上げましたとおり、申し訳ございませんが、詳細な理由は把握をしております。

次、2点目で、移住して10年等経過をすれば、土地、建物等を無償でという制度があるという自治体もあるかと思いますが、現在の豊岡市の支援制度につきましては、先ほどのような段階的な支援ということで、お住まいの部分については、最初申し上げましたような「飛んでるローカル」に載っている物件を改修していただくときの上限100万円とはしておりますけれども、そういった支援ということで、土地を差し上げるとか、建物も無償でどうぞという支援のところにつきましては、現在ないということでございます。今後につきましては、またそういったものが需要があって、必要があって、財政的にも対応できるということであれば、また考えるというような時期もあるのかと思いますが、現在のところはございません。

3番目の地域おこし協力隊ですけれども、今までの方で、大体45名程度の方が、今まであったのかなと思います。任期が来られて、豊岡市に残っていただいている方は、全部はちょっと把握はしていませんが、自営業として民宿などをされたり、または組織、団体地域のそういったところに就職をされてというふうなのもありますし、残念ながら任期の途中で合わなかったということで、途中解職というような形で、帰られたといえますか、された方が9名ほど、途中、隊員都合により、途中解職された方があります。それぞれの理由につきましては、仕事が

やっぱり思ったように合わなかったとか、ご家庭の事情で帰られたという方もあったというふうに思っておりますので、こちらにつきましても、ちょっと詳細が把握しかねておりますが、そういった案件があったということでございます。以上です。

○委員（西田 真） 委員長、よろしいか。

○委員長（田中藤一郎） どうぞ。

○委員（西田 真） 今のお答えしていただいたんですけど、退去者も当然あるかと思いますが、その辺の理由をしっかりと把握して、今後に生かすことも重要だと思いますのでね、その辺はしっかりと、退去をしたらどうか分からないというんじゃないし、せつかく豊岡市に移住されとるんだから、その辺の後の経過もしっかりと調べていただいて、把握もしていただきたい。そして、退去されるんだしたら、その理由も把握して、その理由、退去の理由の解消もぜひしなければならぬと思っておりますので、その辺はしっかりとやっていただきたい。

そして、10年住めば土地、家が無償でという自治体もあると言いました。実際にあるんですけど、現在はしてないということでありますども、予算的なもので、今後は検討する可能性とか、そういうことにおわされておられたんですけど、ぜひそういうことも、中貝市長は、よそがやるとるとこはあんまりしたくないというようなことをすぐ言われるんですけど、ぜひそういうこともやっていただきたい。10年住んだら土地も建物ももらえるということがあれば、やっぱり移住者もこっちに来やすいということもありますので、その辺の環境整備もしっかりやっていただきたい。

そして、地域おこし協力隊なんですけど、途中退職9名ということで、家庭とか仕事の状況とか、仕事が合わなかった、そういうの実際にあるかと思っておりますので、その辺は仕方ないかなと思っておりますけど、任期終わって、その後は把握していなというのは、ちょっともう担当としては全然なっていないなと私は思うんですけど、その辺はしっかりと隊員さんがおられて、その後、豊岡にちゃんと住んでいただくような体制も取っていただいて、その後の把握も

しっかりすべきだと思うんですけど、その辺の考え方も含めて、どうでしょうかね。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 最後のほうからですけども、地域おこし協力隊の任期満了後の状況につきまして、豊岡市にいらっしゃる方、言葉足らずで申し訳ございません。手元にはちょっと全部のデータがないので把握できておりませんが、当然、豊岡に来られて、先ほど言いましたように自営業をされていらっしゃる方、それから、例えば今の、どっかそういうちいきのてだとかという、そういったところの中間組織になりますけど、そういったところで働いていらっしゃる方もございますので、担当レベルでは整理をしておりますので、また後ほど一覧とかでお出しできるようだったら、表でよろしければ、またお示しをしたいと思います。

それと、移住された方で出られた方のフォローといたしますか、理由、しっかり把握してということございましたけども、補助で特に住宅改良の補助、高額な補助を使われた方については、一、二年で当然出られてしまっただけは困りますので、その辺については、補助をした方については特に、よく経過を見ながら整理をしておりますので、ちょっと全体にまで広げられるかっていうのはちょっと課題もあるかと思いますが、努めてまいりたいというふうに思っております。以上です。

○委員（西田 真） 委員長、よろしいか。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） 先ほど協力隊のやつで、詳細をまた、今言っておられましたんで、資料はお願いしたいと思います。これはもう委員長からまたお願いしていただきたいと思えますし、そして、移住者、補助をもらって、その後の経過を見なければならぬ対象の方は把握できてるとおっしゃいましたけど、やはり豊岡市に来られた方は、その後の経過も、そんなごっつい人数じゃないですからね、先ほども言いましたように、2019年では46人の28組ですからね、その辺の経過なんか、簡単に調べられるんじゃないですか。その辺、えらく大層げなこと

言われますけど、その辺の情報状況ぐらいしっかり担当部署としてやっていただきたいと思えます。

そして、10年住めば、これは答弁なかったんですけど、ぜひ今後の検討課題としてしっかりと取り上げていただきたい。

再度繰り返しますけど、以上、どうでしょうか。再度お願いします。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 移住者の方のその後の、転居された、豊岡市から出られたかどうかの状況確認につきまして、可能な範囲で努めたいというふうに思えます。

2番目の、10年先、土地、建物、そういった制度につきましても、豊岡市に予算の可能性があり、いろんなものの条件が整って、できるかどうかも含め、一つの方法としては考えの中に入れていきたいというふうに考えております。

地域おこしにつきましては、後ほど一覧で、またお示しをしたいと思えます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） じゃあ、よろしく願います。

西田委員、よろしいですか。

○委員（西田 真） よろしいです。

○委員（伊藤 仁） いいですか。

○委員長（田中藤一郎） 伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 西田さんの続きで、地域おこし協力隊ですけれども、今期で2名の方が満期を迎えられるんですか、その後はどうされるのか、その辺の状況を教えてください。

それと、この豊岡就活2021っていうことは、最新版で、これはどういったとき、どういった活用され、この冊子をどう活用されるのか、もう一度お答えください。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） まず、冊子のほうですけども、就活応援ということで、大学の3年生ですとか、短大の1年生の方のご自宅にこれを送らせていただくということで、ご家族の方も見ていただける部分があるし、本人様も帰ってこられたときと



かに見ていただいて、そこから一つ、豊岡市の企業への就職、Uターン、Iターンへの入り口というふうなことで活用をさせていただいております。

初めのほうの地域おこし協力隊の今年度2名の分のその後の予定につきましては、今、申し訳ございません、把握しておりませんで、これも整理をさせていただいて、後でお伝えさせていただければと思います。

○委員長（田中藤一郎） よろしくお願ひします。

伊藤委員。

○委員（伊藤 仁） 豊岡就活、これ2021で、最新版になるんだろうけども、これ、倒産しているところが入ってますよね。それに、この冊子の発行日見ますと、2019年12月、この発行日というのは、作った日ってことですか、もう1年以上前に作ったという話なんですか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） おっしゃるとおりです。これでしたら2021年度の新規の採用に向けて作るということなので、1年前といいますか、発行日としては2019年度に作るということで、当然、この今回送るものではないですし、今回は、先ほど申し上げましたように、今までこういった企業様の情報をみんな紙ベースで送ってたのを、こういった少し、印刷代だとかそういったものの少し削減になろうかと思ひますんで、こういったもので送って、あとは電子ブックで見てくださいというふうなことの、情報提供ということできたいと思ひております。

○委員（伊藤 仁） よろしいですか。私の理解が間違っと思ったら教えてほしいんですけども、兵庫県、香住漁港で生まれた和平さん、これもう倒産してるんだよね。ほんで今、ほかの方が営業されたとは聞いてますけども、これで最新版なんですか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） これ、今日の参考ということでお持ちしました、もう1年前ということ。

○委員（伊藤 仁） 2021年。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 今年の、今年度の4

月の就職をされる方ように、2019年に作って、送ったと。来年は2022。

○委員（伊藤 仁） ごめん、3年生に送ったってこと。

○環境経済課長（午菴 晴喜） そうです、はい。就活の始まる人に送って。

○委員（伊藤 仁） 最新版はどこにあるの。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 最新版は、今回、これから、このように紙で企業様を全部羅列したものを印刷を省略をして、この……。

○委員（伊藤 仁） これが最新版。

○環境経済課長（午菴 晴喜） はい、こちらの一番後ろのところに二次元バーコードがございますが、こちらから見ていただいたら、それぞれの企業のところにまたつながっていくというふうな、電子ブックというふうなことで、組み合わせて、初めて取組をさせていただいたところですよ。

○委員長（田中藤一郎） 伊藤委員、よろしいですか。

○委員（伊藤 仁） そうなりますと、豊岡の企業が一覧で、細かくこうやって書いてあると。そこを見なければ、内容が分からない、企業が分からないってことですか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） ある意味でおっしゃるとおりで、ものづくりですとか、例えばここに書いてあるような項目のところで、自分の興味のあるところを読み取っていただくと、そういった企業がばあっと羅列が出てきて、それから自分の、より見たいところを見ていただくと。その企業の基情報は、常々から企業情報を発信しておられますジョブナビ豊岡というふうなところから連携をしてやっております。

○委員長（田中藤一郎） 伊藤委員、よろしいですか。

○委員（伊藤 仁） いやいや、そういうやり方をされるというのは仕方ないですけど、これ、内容がね、本当に冊子のほうが分かりやすいのかなと思うんですけども、企業名、主立った業種が書いてあって、自分が希望される企業なのかどうかということが、入っていかなければ分からないというのはち

よっと残念かなというふうに私は感じたので、意見だけ。意見だけでよろしいです。

○委員長（田中藤一郎） ということで、そのほかございせんか。

関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） 15、6ページとかを見ていただいて、きっかけという部分で、いろんなツールがあって、合計404、人なのか組か問合せありました。その次ページには、移住した方が11月末現在、25組ということで、単純なことですけども、404分の25が移住かかったというように見受けるんですけども、この問いかけの中で、どんなことを皆さん聞かれてるのか、ちょっと少しだけでも教えてください。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 移住のご相談につきましては、がっちり豊岡市を決めてこられる相談も当然ありますし、中には、何となく、どこかというのは絞れてないけど、お尋ねをして、その中で、仕事のことがあったり、学校のこと聞かれることがあるようですし、この相談件数のほうには冒頭申し上げましたとおり、地域おこし協力隊の関係も入れておりますので、結構、地域おこし協力隊の、こういった時節柄もあるのかも分かりませんが、ことについてのご相談が多いというふうに聞いてます。

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） そうしたら、内容的にはそうなんですけども、具体的に移住を試みようという意思を持って相談された方としたら、そのときに受けたほうは、相談を、質問に対して答えを出すということは当たり前の話なんだけど、例えば豊岡市はこんなところですよという中に、超過課税課してますよとか、子ども医療費は無料じゃないですよっていうのは言ってるの。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 窓口の職員にそこまできき取りをしておりませんが、まずそういったことの細かいことは言えてないというか、言っていない、もっとざくっとしたようなこと。例えば今でし

たら、演劇のとか、そういったことは言葉として出てきたりはするかと思いますが、豊岡市が超過課税をしておりますが、大丈夫ですかとか、そういったことはちょっとないかと思いますが。（「絶対来んやろな」と呼ぶ者あり）

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） であるならば、試しにそれを言ってみてください。どういう反応が出るかちょっと聞いてみてほしいもんだなって思います。

それと、17ページの表の中で、今度お伺いしますけども、先ほど言った、状況としては25組の方が、20年度11月末で来られました。50人です。次のアの地域別には、豊岡から但東まで書いてあります。20年度の分で11月末の内容を見ると、一番多いのが、8組、日高と豊岡。人数は違いますけどね。そういったような表現がしてあります。想像するに、この豊岡のか知りませんが、想像するのは、城崎の4組、日高の8組、想像で豊岡の8組に関しては、城崎の場合はNOMOベースボール関係、日高の場合は演劇青年団の関係、豊岡の場合は、もしかしたら大学の関係というようなことがちょっと考え得るんですけども、実際は今言ったような内容ありますか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 詳細、これも申し訳ございません、把握はできておりませんが、日高については、確かに演劇の関係の方があろうかと思いますが、城崎と、今の豊岡の大学の関係も、当然大学の関係の方もこれから増えるかと思いますが、今のところ、まだそこまで人数、反映してないのではないかというふうに思っております。

○委員長（田中藤一郎） よろしいですか、関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） それで詳細が分からないということですが……（「何で詳細が分かれへん」と呼ぶ者あり）要はね、移住してくださいねっていうこと発信するっていうことは、豊岡に縁もゆかりもない方が、新たに来ていただけるっていうパターンっていうのがベストと言えるかなという意識があるんですけどね。豊岡に来ざるを得ない人が来たこと

を、移住定住万歳なんて言ってるっていうのはちょっとおかしいと。ただ、その辺のデータは明確に出していただきたい、出すならば。と思うんで、今後よろしくお願ひしたいと思いますが、いかがですか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） どのような理由で来られたかっていうところが、一つの表にまとめてしまうことに対して、どうだっということになるかと思ひますけども、どんだけ分割できるかも分かりませんけれども、今、担当課としましては、移住してこられた方ということのくくりの中で、可能な事務をさせていただきたいというふうに思ひます。

○委員長（田中藤一郎） 関貫委員。

○委員（関貫久仁郎） 仕事の持っていく方をいうとそうだと思ひるんだけど、定住、移住してくださいという発信に対して、コスト、物すごいかけた。それに対して、縁もゆかりもない方が豊岡に魅力を感じて来ていただけたっていうのが一番いいでしょう。だから、それを強調していただけるような、資料が欲しいということで理解してください。よろしくお願ひします。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長、そちらのほうの資料のほうは大丈夫ですか。

○委員（関貫久仁郎） 今後ですよ、今後。

○委員長（田中藤一郎） 今後。

○環境経済課長（午菴 晴喜） はい。

○委員（西田 真） 委員長、もう1点。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） この冊子、ちょっと見させていただいてます、豊岡市の企業紹介ということで、それぞれものづくりとか、建設、観光とか、卸とかサービスとかあるんですけど、このいろんな業者さんは手を挙げられた業者さんが載っ取るのかどうか。そして、ここの2021年の豊岡就活、いろんな会社が載ってますけど、この掲載の費用というのは、全て行政持ちかどうか、その辺も、ここに載っ取る会社ですね、その辺はどうなんでしょうか。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長。

○環境経済課長（午菴 晴喜） まず、この小さいほ

うの冊子で載られている企業様は、手を挙げられたところかっていうことで、結果としましては、おっしゃるとおりで、ジョブナビ豊岡という企業紹介をさせていただいてる大元のサイトがございまして、そちらが1社2万円ということで、お金を頂戴しておりますので、そちらとつなげていうか、リンクをさせた情報発信をしておりますので、そういった事業者となります。

それから、就活のこの、1年前にはなりますけど、冊子のほうでございまして、金額までは確認できておりませんが、負担をもらいながらしているというふうに解釈しています。

○委員長（田中藤一郎） 西田委員。

○委員（西田 真） この小さいほうは1社2万円ということで、それぞれいいんでしょうけど、こっこのほうの冊子は、また後で、1社どれぐらいかいうことも教えてください。以上、よろしくお願ひします。

○委員長（田中藤一郎） 午菴課長、大丈夫ですか。

○環境経済課長（午菴 晴喜） 確認等させていただきます。

○委員長（田中藤一郎） よろしくお願ひします。

○委員（西田 真） 以上です。

○委員長（田中藤一郎） そのほかございましてしょうか。

ないようですので……（発言する者あり）

成田部長。

○総務部長（成田 寿道） 先ほどの資料の関係で確認をさせていただきたいとありますが、職員の採用の件なんですけど、一般職、一般事務職とか、土木とか、建築とか、いろんなあれがあるんですけど、それはもうトータルでの、数字でいいということで、理解でいいですか。

○委員（西田 真） 消防も含めて。

○総務部長（成田 寿道） 消防も含めて。分かりました。トータルで男女比ということですね。

それと、もう1点、資料のほう、また準備させていただく予定してありますが、男女比の部分だけ、ちょっと数字だけを報告だけさせていただきたいと思

います。

○委員（西田 真） 後で表も下さいね。

○総務部長（成田 寿道） はい。それは資料はお渡しします。

管理職です、すみません、男女比から行きます。これ、今年の4月1日、2020年の4月1日の数字ですが、女性が31.3%、887のうちの278という数字です。管理職比ですが、126、これは課長以上の管理職、126人のうち13人が女性ということは、10.3%で、課長級は11.3%、97人のうちの11人、11.3%。部長級は22人のうちの2人ということで、9.1%、9%ぐらい。次長級っていうのがあるんですが、これについては女性はいないということで、これ消防が主です。ということになります。資料のほうはまた後ほどお渡しするというので、速報だけお伝えさせていただきます。以上です。

○委員長（田中藤一郎） ありがとうございます。

それでは、以上で委員会所管事項については終わります。

この際、当局から何か発言はありませんか。

部長、大丈夫ですか。いいですね。

ほかにないようですので、当局の職員の方は退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

〔当局職員退席〕

○委員長（田中藤一郎） 暫時休憩します。

午前11時27分休憩

---

午前11時29分再開

○委員長（田中藤一郎） それでは、委員会を再開します。

（2）の委員会運営方針についてを議題とします。委員会の重点調査事項を別紙1として添付しております。何かご意見あれば、前回同様で行いたいと思います。ご意見がありますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（田中藤一郎） ありがとうございます。

ご異議がないということですので、そのように決定しました。

引き続きまして、（3）その他についてを議題とします。

特に議題は設けておりませんので、何か発言はありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（田中藤一郎） ないようです。

それでは、次第4番、閉会。

これをもちまして、人口減少対策等調査特別委員会を閉会します。皆さん、ご苦労さまでした。

午前11時30分閉会

---